

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173200898		
法人名	株式会社 ザ・ムーバー		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	埼玉県比企郡鳩山町今宿146-1		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200898&amp;SCD=720">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200898&amp;SCD=720</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ほぼ毎日の散歩(外出)、関節可動域訓練の実施、食前における嚥下訓練の実施。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは2階建て2ユニットで、職員に看護師2名が配置され、在宅医療が必要となっても対応してもらえるホームである。毎日の暮らしの中に、音楽に合わせた体操、関節可動域訓練、食前の嚥下訓練等のリハビリ訓練や、レクリエーションを取入れ、機能低下を予防している。又、健康で閉じこもらない暮らしの継続が出来るよう、地域や外部の方と交流する機会を多く持つよう、外出支援に努めている。入居者が重度化した場合は、家族と話し合いの上、希望があれば、看取りケア実施について医師や関係者と話し合い、方針を共有し、対応している。入居者、家族等は、医療行為や看取りケアまで迅速に対応してもらえる事で、安心した暮らしが出来ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と人の絆を大切に、その人に合った生活環境づくりを目指します」という理念を会議等において唱和し、職員の共通認識を図っている。	理念を事務所内に掲示し、会議等で唱和し、共有している。実践では申し送り時に入居者の身体状況、生活歴等を把握し、各々の共通の体験等を引き出し、人との絆が得られるようその都度工夫して対応に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の一員として生活できるように、毎日散歩を行い、地域住民と顔を合わせて会話をする機会を確保している。	理念を踏まえて自治会に加入し、毎日の散歩時の挨拶や会話を積極的に行い、地域の行事やホームの行事等にお互い参加し合っている。又、地域の公共施設の利用等で地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催のふれあい広場等に参加し、地域の方達とのコミュニケーションを図り相談に応じている。来年度は65歳以上対象の鳩山町介護支援ボランティア制度を活用し、地域貢献を図っていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月周期で開催し、事業所運営の事業報告や利用者のプライバシーに配慮した上での状況報告を行っている。国の補助金によりスプリンクラーを設置、今年は、地元消防団の参加が許され、より一層地域との密着度が高まる。	2ヶ月に1回開催し、ホームの行事報告や課題についての取組み状況の説明等を行った上で、意見交換をしている。今年度は推進会議に地域の消防団の参加が得られ、避難対策の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員と、電話や役所を直接訪問して利用者に関する相談を行っている。	市町村とは、電話や窓口訪問にてホームの空き状況や、入居者に関する相談を行っている。又、社協や包括支援センターの会議や研修にも参加して情報提供や意見交換しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践について、会議、日々のミーティングを通して職員の共通認識を図っている。裏口は施錠せずに、利用者が裏庭に自由に行き来することが出来るようになってきている。	研修や日々のミーティング等で理解し、拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠については、大通りが近い事や、以前の経験、入居者の心理状態を考慮して対応している。裏口は出入自由になっている。徘徊の強い方には職員と一緒に歩く等柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体はもちろんの事、プライバシー、接遇への配慮に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在司法書士の方を成年後見人として制度を利用している利用者さんがいる。外部の研修に参加するなど、個々の必要性を関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までの間に、十分な機会をもうけ説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱の設置や、アセスメントの実施により利用者や家族からの意見聴取を行っている。日常的なサービス提供を通して、利用者からの要望等を把握している。	入居者には日常の関わりから、家族からは面会時や電話で意見や要望等を聞いているが、個人的なケアに関する意見は出るが、運営に反映するような意見等はあまり出ない。	面会に来られない家族等に、担当者から定期的に入居者の生活の様子や行事案内、実施報告を伝える事で、要望や意見等の表出のきっかけになる様な、家族への誘い方の工夫が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や毎日行われるミーティングにおいて、職員からの意見や提案を聴取している。管理者は必要に応じて職員との個別面接を行い、利用者とのコミュニケーションのとり方に関する意見聴取を行っている。	本部へは管理者がホームで抱えている課題や現状を伝えている。職員からは毎朝のユニット会議やミーティング時、日常の業務の中で、温泉へ連れて行きたい等の意見や提案を聞いている。又、必要に応じて個別面談を行う事もある。	定期的に全職員間で意見や提案、外部研修受講等の要望など、十分に話合える機会を設け、それらの意見等を運営に反映される事が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最大限に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修を受ける機会を作ると共に、事例検討を通して、内部での研修を蜜に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のケア会議、サービス担当者研修会、地域密着会議に積極的に参加し交流を通じ向上の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間でアセスメントを共有、生活暦、健康状態を理解し、本人の意向に沿った対応に心掛け、信頼関係を築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションを密にとり、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、今までの環境を最大限に活かした、その人中心の生活を見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、私達の未来の姿と自覚し、家族的な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員では限界があり、家族でしか補えない事がある事から、共に協力しながら、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩コースにゲートボール場があり、ゲートボールをしている友人と話しをする機会をつくっている。利用者の詩吟の活動を支援している。利用者の友人がホームを訪ねて来た時にはお茶やお菓子を提供している。	毎日の散歩コースで公園に寄り、地域の友人と話をしたり、遊びに来てもらったり、又、詩吟等の趣味毎の継続支援や商店への買物等で、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい、穏やかな生活を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用の開始におけるアセスメントや日常的なサービス提供を通じて利用者の希望や威光を把握している利用者が不安定になった場合等、その原因や対応方法等を、会議において検討している。	アセスメントやユニット会議の折に各人との絆の持ち方について確認し、共有して日常の関わりの中から言葉、表情、行動等から思いや意向を把握している。困難な場合は、関係者で話合って本人本意に検討し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	より詳しいアセスメントの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングを蜜に行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画原案の作成にあたり、朝のミーティングや午後のミーティング、ケアカンファレンスを通じて利用者ニーズの把握を行っている。	本人や家族の要望などを聞き、個別の記録等を参考にケアマネが計画書を作成し、職員間で話し合い、気づきや意見を反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。変化時や期間到来には見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を蜜に行い実践へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対して柔軟に対応、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、訪問歯科による受診を支援しており、精密検査が必要な場合は大学病院等、専門医の受診を受けてよう援助している。	入居者のほぼ全員が歯科を含む協力医の診療を希望し、月2回の往診により受診している。専門医療が必要になった場合は、基本的に家族対応で受診し、受診結果については報告・共有して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護・看護師との連携を密にとり、早期発見、早期治療に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換と連携を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取りに関する指針」に基づき、看取り介護の対応方法や手続きに関する説明を行っている。看取り介護は医師の協力を得て、医師による専門的な判断に元づく説明を行った上で家族等の同意を得ている。	重度化した場合は、家族等に「看取りに関する指針」を説明した上で契約を交わしている。終末期のあり方について、医師、職員、家族等で話し合いの機会をもち、方針を共有して協力を得ながら支援している。今までに看取りの経験もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	症例毎に、看護師、ケアマネによる研修、ミーティングを密に行い、予期せぬ事態に対応する能力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の災害等を想定した避難訓練を、消防署の指導に元づき、年1回実施している。利用者の迅速な避難誘導の為に、地域住民の協力を運営推進会議を通じて働きかけている。	年1回、夜間の災害を想定して避難訓練を消防署指導の下で行っている。今年度から近隣の消防団員が運営推進会議のメンバーに加わり、災害対策について近隣の理解や協力が一層得られるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝・夕のミーティングにおいて、利用者に対する人格を尊重したサービス提供を実現する為に必要な知識の共通認識を図っている。	人生の先輩として一人ひとりの人格を尊重して対応している。対応の方法について、笑顔と精神の安定を図る対応になるよう、研修をしたり、ミーティング時に話し合い、共有して実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どこか行きたい所があるか個々に聞いてできる範囲で希望にそようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を過ぎても休みながら自力で食べられる方は せかさずゆっくり召し上がっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1～2ヶ月に1回理容師に来てもらったり、パーマや毛染めの希望者がいるときはその都度美容師に訪問してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の食事形態、食事制限、好み等を台所の冷蔵庫に掲示している。おやつに(あんこ餅、桜餅、お好み焼き等)を作り、配膳、下善、テーブル拭き、オシボリ干し等を利用者と職員が協働で行っている。	献立から食材までは委託業者から届き、ホームで調理をしている。入居者各々の健康状態に合わせ、各人の嫌いな物を把握した食事形態にしている。食事時はテレビをつけ、職員は介助や見守ながら声掛けをし、楽しく食べている。あんこ餅や桜餅等のおやつを入居者と一緒につけて食べたり、時々外食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し体調管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの誘導や介助をしたり、義歯を洗ったりうがいの介助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」を作成してはいせつリズムを把握し、ポータブルトイレ等を活用し、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。排泄時、腹圧をかける必要性の有る利用者に対して、職員が複数で支援を行っている。	排泄チェック表等から各人の排泄パターンを把握し、その方の生活リズム等に合わせながら、さりげない声掛けや誘導を行い、夜間オムツの方でも日中は出来得る限りトイレでの排泄を支援している。失禁時はトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「排泄チェック表」を活用し、水分や下剤等で予防するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回階が月・水・金、2階が火・木・土の入浴日になっているが、利用者の希望に基づき毎日入浴できる体制を整えている。	各階週3回の入浴となっている。月曜から金曜で1階と2階で交互の入浴日となっている為、希望すれば週何回でも入浴出来る体制である。入浴が楽しみになる様、声掛けや誘導を工夫したり、ゆず湯や菖蒲湯も行っている。入浴を拒む方は現在いない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はあまり長くないようにし、昼夜逆転しないようにしている。睡眠導入剤もなるべく使用しないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように工夫し、起床時、毎食前、後、就寝時に与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物で出来る範囲のことであったり、詩吟に通っていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩(毎日)、外食(ファミリーレストラン)、買い物(農産物直売所、商店街)図書館、資料館等の外出支援を行っている。利用者が季節の移り変わりを実感できるように、初詣、花見、お祭り等に出かけている。	天候に合わせて、歩行困難な方も車椅子を利用して毎日近隣への散歩、買物、図書館や資料館等地域の公共施設などへ出掛けている。又、五感の刺激に、外食や季節の花やお祭りを見に行く等、日常的な外出支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に、機能に応じ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に予定表をリビングに掲示している。行事や日常生活における利用者の様子の写真や利用者の似顔絵等の掲示物を	共用空間は明るく、調度品や身近な生活用品等も、入居者が混乱しないように工夫して配置されている。廊下や居間には、元職員の絵画や入居者の写真、予定表等が掲示され、置のコーナーもあり、入居者が思い思いに居心地良く過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしていた仏壇、写真、衣類、テレビ等を事業所に持ち込んでいただくようになっており、利用者が入居前と同じように、事業所でも自宅にいる感覚で落ち着いて生活できるように配慮している。	使い馴れた家具や大切にしている衣類、写真や本などの品物、楽しみのテレビやラジオ、趣味の物等、その方に合った物を持ち込み、その方らしい暮らしが出来る居室となっている。居室ではラジオにあわせて歌を歌っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		